

第 15 回品質保証検討会 議事録

1. 日時 平成 18 年 11 月 15 日 (水) 13:30 ~ 16:30

2. 場所 日本電気協会 4 階 B, C 会議室

3. 出席者 (敬称略, 五十音順)

出席委員: 渡邊 (邦) 主査 (東京電力), 溝内副主査 (関西電力), 石井 (日本原子力研究開発機構), 伊東 (三菱原子燃料), 大友 (東北電力), 大野 (中国電力), 小宮山 (グローバル・ニュークリア・フュエル・ジャパン), 齋藤 (三菱電機), 佐藤 (東芝), 芝原 (日立製作所), 島津 (北海道電力), 首藤 (電源開発), 鈴木 (中部電力), 竹添 (九州電力), 辰巳 (北陸電力), 手束 (四国電力), 古川 (日本原子力発電), 宮越 (三菱重工業), 宗像 (原子力安全・保安院), 渡辺 (雅) (原子力安全基盤機構)

代理委員: 小坂 (原子力安全・保安院 長谷部代理), 新田 (富士電機システムズ 高橋代理)

欠席委員: 飯塚 (東京大学), 今村 (三菱重工業), 岡野 (九州電力), 佐々木 (日本原燃), 竹本 (東京電力), 中條 (中央大学), 結城 (原子力安全・保安院), 米田 (原子燃料工業)

常時参加者: 下川 (原子力安全基盤機構)

事務局: 浅井, 池田, 長谷川, 国則 (日本電気協会)

4. 配付資料

資料 No. 15-1 第 14 回品質保証検討会 議事録 (案)

資料 No. 15-2 第 5 回 JEAC4111 普及タスク 議事録 (案)

資料 No. 15-3 原子力規格委員会 品質保証分科会 品質保証検討会委員名簿

資料 No. 15-4-1 JEAC4111-2003 普及に関わる講習会概要

資料 No. 15-4-2 「JEAC4111-2003」コース 研修プログラム (案)

資料 No. 15-5-1 調達管理検討WG 活動状況報告

資料 No. 15-5-2 「JEAG4121 の調達管理」検討状況と成果のまとめ方

資料 No. 15-5-3 JEAG4121-2005「7.4 調達」の Appendix 「調達管理のガイド」(Rev2)

資料 No. 15-6-1 IAEA のマネジメントシステムの反映検討について (中間報告)

資料 No. 15-6-2 IAEA 安全要件(GS-R-3(DS338 Draft10)):施設及び活動のためのマネジメントシステム)に対する JEAC4111 の対応状況

資料 No. 15-7-1 根本原因分析のガイド作成の中間報告

資料 No.15-7-2 JEAG4121-2005「8.5.2 是正処置」の Appendix
「根本原因分析のガイド」(D5)
資料 No.15-8-1 平成 18 年 10 月 18, 19 日 JEAC4111 講習会 質問対応
資料 No.15-8-2 JEAC4111-2003「原子力発電所における安全のための品質保証規程」
質問対応(平成 18 年 11 月 1 日付け質問)
資料 No.15-9 日本電気協会規格委員会 18 年度 功労賞表彰の推薦について
参考資料 No.15-1 平成 18 年 10 月 JEAC4111 講習会アンケート集計
参考資料 No.15-2 平成 18 年 10 月 JEAC4111 講習会 当日の質疑応答

5. 議事

(1) 代理委員の承認と会議定足数の確認

渡邊(邦)主査による代理者の承認後,事務局より,出席委員数が議案決議の条件である委員の3分の2以上という,定足数を満たしていることが確認された。

(2) 第 14 回品質保証検討会 議事録(案)について

事務局より,資料 No.15-1 第 14 回品質保証検討会議事録案が紹介され,本内容で正式な議事録とすることが全員の賛成で承認された。

(3) 第 5 回 JEAC4111 普及タスク 議事録(案)について

事務局より,本検討会改組に伴い廃止された JEAC4111 普及タスクの最終回の議事録となる,資料 No.15-2 第 5 回 JEAC4111 普及タスク議事録案が紹介され,本内容で正式な議事録とすることが全員の賛成で承認された。

(4) 品質保証検討会 新任常時参加者について

資料 No.15-3 に基づき,事務局より,原子力安全基盤機構下川様が品質保証検討会の新任常時参加者候補として紹介され,全員の賛成で承認された。

(5) 平成 18 年度品質保証分科会活動計画の中間報告

(5-1) 普及活動について

資料 No.15-4-1~15-4-2 に基づき,普及促進チームリーダー代理の島津委員より,活動状況が報告された。

本件に関する主な議論の内容は以下のとおり。

- ・ 現在,コース 講習会の 12 月開催予定の東京コース は 108 名,来年 1 月開催予定の大阪コースは 105 名の申し込みを受け付けている。
- ・ コース 講習会は 2 月 22 日,23 日の開催を予定している。外部会議室の利用

を考えており、受講料は5万5千円程度の予定である。詳細は、普及促進チームでさらにつめる。

- ・ コース 講習会の参加対象者は、QA 部門のひとに限定するのか？
→対象は QMS の実務的・実効的な推進者と想定しており、各社の QA 部門のコアになるメンバに限定したい。
- ・ 電事連の品質保証検討会 RCA 推進 WG で、RCA 関連の研修を予定しているが、あくまでも一般的な RCA の手法の研修という位置付けである。
- ・ RCA、IAEA、調達管理チームの検討結果は、JEAG4121 の改定内容に反映されることになり、日本電気協会で開催する JEAC4111・JEAG4121 の講習会にそれらの内容も取り込む必要がある。

コース 講習会の12月開催予定の東京コース、来年1月開催予定の大阪コースのテキストについては、必要があれば編集上の修正などを行うが、原則10月開催の東京コースの内容と同じものにて、改めて検討会の審議にはかけないこと、来年2月開催予定のコース 講習会のテキストについては、メールによる内容紹介とコメント依頼で審議に代えることが、全員の賛成で承認された。

(5-2) 調達管理について

資料 No.15-5-1～15-5-3 に基づき、調達管理チームリーダーの齋藤委員より、活動状況が報告された。

本件に関する主な議論の内容は以下のとおり。

- ・ 一般に、規格の全面改定時期とタイミングがずれる場合は、追補版の形態で発行することも考えられるので、成果のまとめ方の検討の際に考慮すべきと考える。
→RCA など、他の改定内容も含めて検討する。
- ・ 規約などで改定に関するルールは決まっているか？
→規格内容の陳腐化を防ぎ、適切な規格の維持、普及に努めるよう、「各規格は少なくとも5年毎に全面的な見直しを行うこと」というルールが決まっている。成果のまとめ方については、規制によるエンドース等も踏まえ利用者の利便性を考慮して判断する必要がある。なお、基本方針策定タスクでは、規制体系の中の位置づけや JEAC と JEAG の分類・関係などの検討を開始しており、品質保証分科会の現在の検討内容も例示として提供し議論するのがよい。
- ・ 推奨事項と解説を分けて編集する方がよい。
→現状 JEAG4121 の改定として解説と例示の内容を見直しており、新たな推奨事項、すなわち新たな規格の要求事項は入っておらず、また、JEAG4101 の内容は、品質保証仕様の例示として扱う予定である。

- ・ 資料 No.15-5-3「調達管理のガイド」の付属書として添付されている「工事に係る主要業務フローと品質保証活動の概要」の扱いは？
→ 調達管理全体の解説（第2部に追加）の内容に含めることを考えている。
- ・ JEAC4111，JEAG4121の改定スケジュールとJEAG4101の廃止スケジュールが合う様に調整が必要ではないか？
→ 提案の際に，改定版の最終承認を廃止の条件に含めるなど考慮したうえで，基本的には同時に改定案，廃止案を上程することでよいと思われる。
- ・ JEAG4101の廃止については，事業者がJEAG4101を現契約の購入仕様書に使用しているなど，規格の利用者側に発生する実際の作業も含めて検討すべきである。
→ 改定・廃止を同時に行うことで，利用者側に問題が生じないかなどを確認のうえ，必要があると判断する場合は改定・廃止スケジュールの提案に反映する。
ただし，JEAG4101が廃止されれば，その後のメンテナンスを行わず原子力規格委員会の規格リストから外れることにはなるが，既存の契約でのJEAG4101の適用が無効になる訳ではない。
- ・ JEAG4101の廃止については，JEAG4101がこれまで事業者にも供給者にも適用されていたことを考慮して，規格策定機関としての改定版JEAG4121への移行の考え方など，想定されるQ&Aを整理のうえ提案する必要がある。また，説明責任の観点からも，その考え方は，規格の解説やまえがきなどで明確にすべきと思われる。

(5-3) IAEA QA コードの評価について

資料 No.15-6-1～15-6-2 に基づき，IAEA 基準検討タスクリーダーの鈴木委員より，活動状況が報告された。

本件に関する主な議論の内容は以下のとおり。

- ・ 資料No.15-6-1「IAEAのマネジメントシステムの反映検討について(中間報告)」を一部以下の様に修正する。
 - 5.(2)a.の「現在用意している…関係がある」を削除し，「当面反映することとし」を断定的にならない記載にするなど，今後の進め方が明確になる様に修正
 - 5.(2)c.を削除
 - 「JEAC4111とGS-R-3(IAEA)の比較表(まとめ)」の“供給者との関係”の“対応”欄が「備考」と分る様に修正
 - 「JEAC4111とGS-R-3(IAEA)の比較表(まとめ)」の“安全文化に関する要求事項をマネジメントシステムに合体”の“対応”欄の「JEACに何らかの形で反映する」の記載を断定的にならない様修正

- ・ 来年 IAEA の IRRS を招請することとしており、国として基本的には安全条約に基づき IAEA QA コードに準拠するものとしての評価も考慮する必要がある。

(5-4) 根本原因分析について

資料 No.15-7-1～15-7-2 に基づき、根本原因分析 WG リーダの渡邊主査より、活動状況が報告された。

本件に関する主な議論の内容は以下のとおり。

- ・ 資料 No.15-7-1「根本原因分析のガイド作成の中間報告」を一部以下の様に修正する。
 - 2.(2)の「直接原因分析を実施し」を「原因分析を特定し」とし、「その中で直接原因を」を「その中で原因を」とする。
 - 2.(4)の「組織・マネジメントの要因」を「組織・マネジメント・仕組みの要因」とする。
- ・ 来年度からパイロットプラントでの試運用を開始するために、今年度末までに改定案を完成させ原子力規格委員会に上程し、遅くとも来年度上期末頃開催が予想される原子力規格委員会で改定案の最終承認を取得するというスケジュールを目指す。このため、各チーム・WG での検討は来年 1 月末の完了を目途に進める。なお、今年度末の原子力規格委員会開催後には、2 週間程度（規約上は 30 日以内）の書面投票、コメント対応、2 ヶ月の公衆審査、コメント対応が必要となるため、あまり余裕のあるスケジュールではない。
- ・ 8.5.2 是正処置の一環として位置付けると、毎回の不適合の原因特定で実施する様に思われる可能性が高いため、8.5.3 予防処置の一環として位置付けを明確にすべきと思われる。
- ・ 現状の活動と何が変わるのかという点が明確になる様な資料にする必要がある。

(5-5) 活動全般について

平成 18 年度の活動全般に関する主な議論の内容は以下のとおり。

- ・ 現状まだ中間報告段階の案ではあるが、特に各事業者は実際の運用を想定して内容に問題がないか検討願いたい。

(6) 質問対応について

資料 No.15-8-1「平成 18 年 10 月 18、19 日 JEAC4111 講習会 質問対応」および資料 No.15-8-2『JEAC4111-2003「原子力発電所における安全のための品質保証規程」質問対応（平成 18 年 11 月 1 日付け質問）』について、各委員回答案を持ち帰り内容を検討のうえ、コメントがあれば 11/17（金）午前中までに事務局まで連絡し、コメントの反

映は主査および副主査一任として、必要な修正を施した内容で 11/21（火）開催の第 17 回品質保証分科会に提案することが、全員の賛成で承認された。

(7) 平成 18 年度功労賞表彰の推薦について

資料 No.15-9 に基づき、渡邊主査より、平成 18 年度功労賞被表彰者候補として齋藤委員の推薦があり、本内容で品質保証分科会に提案することが、本人を除く全員の賛成で承認された。

(8) その他

- ・ 事務局より、9 月に実施したオンラインストレージサービスのトライアルについて報告があり、19 名の委員が試行したが 4 名の委員が利用できない結果であったため、本システムの採用は進めず、将来必要が生じた際にあらためて検討することとした。
- ・ 第 17 回品質保証分科会用資料は、原則 11/17（金）までに事務局まで送付することとした。
- ・ 現在、運転・保守分科会で「JEAC 4209-2003 原子力発電所の保守管理規程」の改定及び指針(JEAG)の制定が進められていることと、今後の JEAC4111, JEAG4121 との内容のすり合わせについては、渡邊主査、溝内副主査が対応する予定であることが紹介された。

以 上